

『岸辺露伴 ルーヴルへ行く』
荒木飛呂彦 著 集英社 2011

今年の4月からこの松蔭の図書館で働き始め、
この1年わたしはいろんな「アート、デザインに関する本」を
毎月司書の部屋にて、紹介してきました。
今年最後の今月は、わたしの大好きなジョジョで締めくくろうと思います！
「ジョジョの奇妙な冒険」（通称ジョジョ）が
わたしは学生のころからだいすきなのですが、
なかでも4部にでてくる岸辺露伴がわたしはとてすきです。
その岸辺露伴をフューチャーした物語が、この
『岸辺露伴 ルーヴルへ行く』です。

2016年4月より
4部アニメ化決定！

荒木先生の作品は漫画としてももちろんとても
楽しいのですが、美術的な面でもとても
魅力的な作品だと思います。荒木先生の描く絵は、
ダイナミックで躍動感があり、人物の表情、
そして動きがとても色っぽい。色合いもとても
美しく、いつも思わず手にとってしまう、引き込まれてしまいます。
今回のこの作品もとても鮮やかで美しく、飾りたいほどでした。
しかもオールフルカラー！

「この世でいちばん黒い絵」がルーヴル美術館にあると聞き、
漫画家である岸辺露伴は取材もかねて
ルーヴル美術館へと足を運ぶことに。
そこで岸辺露伴をまちうけていたものとは？！
この世でいちばん黒い絵とは？！
岸部露伴の冒険が今はじまる！

ドロっとした空気感に、ゾクゾクする謎。
ページをめくる手がとまらなくなりました。
そしてなんといっても岸辺露伴が美しい！そしてイケメンです！
岸辺露伴のスタンド「ヘブンズドア」も炸裂しています！かっこいいです！

また、今回のこのお話は、
2009年 フランスのルーヴル美術館で
テーマ展「小さなデッサン展 - 漫画の世界でルーヴルを - 」によせて
荒木先生がかいたものです。
ルーヴル美術館に日本の漫画家の絵が展示されるのは
初めての出来事なのだそうです。そのための取材で荒木先生が
ルーヴル美術館をおとすれたときのフランス取材記
「荒木飛呂彦 ルーヴルへ行く」も巻末に収録！物語にも出てくる、
ルーヴル美術館の地下倉庫や地下エリアへの取材は
とても興味深いものでした。
今回のこの作品でますますジョジョ、
荒木先生の作品の魅力にとりつかれたわたしなのでした。